

インターバンクの声（2015年3月2日）

週末そして2月の最終日となった27日のニューヨーク市場は、ロンドン・フィクシングを巡る資本筋の需給による影響も噂されたが、目立った動きは見られなかった。相場を動かしたのがニューヨーク市場の午前中に相次いで発表された米経済指標だったが、結果が強弱まちまちとなる中で、予想を上回った2月のミシガン大学消費者信頼感の数字がドル売りの流れに歯止めを掛けてドルを買い戻させるきっかけとなっていたようだ。それでも市場は最後まで120円台に戻すような場面もないままに2月の取引を終えている。昨年ほどではないようだが、速報値や市場予想を上回ったミシガン大学消費者信頼感にしても、今年も米北東部や中西部が悪天候の影響を受けていたようだ。この影響を考慮に入れば米国の実態経済にはもう少し上振れ余力があったかも知れない。今週金曜日には早速米雇用統計の発表となるが、週末に利下げをした中国の全国人民代表大会も木曜日に始まり、初日に成長率見通しの発表をしてくるのかも注目される。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。